

入稿前データ作成ガイド

MDコーナーで取り扱うソフトウェア

対応可能なオフィス系ソフトは、Windows 版のワード・パワーポイント・エクセル、Illustrator、Photoshop、InDesign です。こちらのソフトを使用しデータの作成をお願い致します。



※マッキントッシュ版は対応していません。

MD コーナーではお客様のデータ入稿後、印刷するにあたって不備が無いか確認を行っております。完全データでの入稿をお願いしておりますので、お手数ですが入稿前に各アプリケーション別のチェックリストのご確認をお願いいたします。

- ・用紙サイズ、用紙の種類 1 ページ
- ・用紙の厚さ、印刷の色目について 2 ページ
- ・塗り足しとトンボについて、塗り足しが不十分な場合 3 ページ
- ・Wordでの塗り足しデータ作成手順 4 ページ
- ・PowerPointでの塗り足しデータ作成手順 8 ページ
- ・Illustrator、Photoshop、InDesign チェック項目 11 ページ

用紙サイズ

A版やB版など各サイズの寸法（単位：mm）、用途をまとめております。
データ作成の際などにご利用ください。

A版(JIS規格サイズ)

種類	サイズ
A0	841×1189
A1	594×841
A2	420×594
A3	297×420
A4	210×297
A5	148×210
A6	105×148

B版(JIS規格サイズ)

種類	サイズ
B0	1030×1456
B1	728×1030
B2	515×728
B3	364×515
B4	257×364
B5	182×257
B6	128×182

その他のサイズ

種類	サイズ
名刺	55×91
ポストカード	100×148
往復はがき	148×200
長3封筒	120×235
角2封筒	240×332

A判用途

種類	用途
A0	ポスターなど
A1	ポスター、新聞紙を広げたサイズ
A2	室内ポスターなど
A3	選挙ポスターなど
A4	月刊誌、週刊誌など
A5	専門誌、雑誌など
A6	文庫本、ハンドブックなど

B判用途

種類	用途
B0	ポスターなど
B1	駅貼りポスターなど
B2	室内ポスターなど
B3	電車の中吊りなど
B4	新聞折込チラシ、原稿用紙、雑誌など
B5	辞典、教科書、雑誌など
B6	単行本、メモ帳など

用紙の種類

MDコーナーで扱っている用紙をご紹介します。

こちらの用紙以外でご希望の用紙が御座いましたら遠慮なくご相談ください。



コート紙 (光沢紙)

表面、裏面に薄くコート剤を塗布した用紙です。印刷すると光沢が出て、発色性がよく、写真なども比較的美しく再現されます。新聞折込チラシ、パンフレットなどにもよく使用されます。



マットコート紙 (光沢紙)

コート紙の光沢を抑えたマットな質感の用紙です。しっとりとした落ち着きがあり、高級感のある用紙として知られています。反射が少ない分、文字が多くても読みやすく、パンフレットのほか、会社案内や冊子にも使われます。色味はやや沈んだ仕上がりになる傾向があります。



上質紙

一般的に使用されているコピー用紙とほぼ同等の質、風合いの紙と理解すればわかりやすいでしょう。表面に光沢はなく、ややざらついています。印刷では発色性はそれほど高くありませんが、鉛筆やボールペンによる筆記はしやすい紙です。



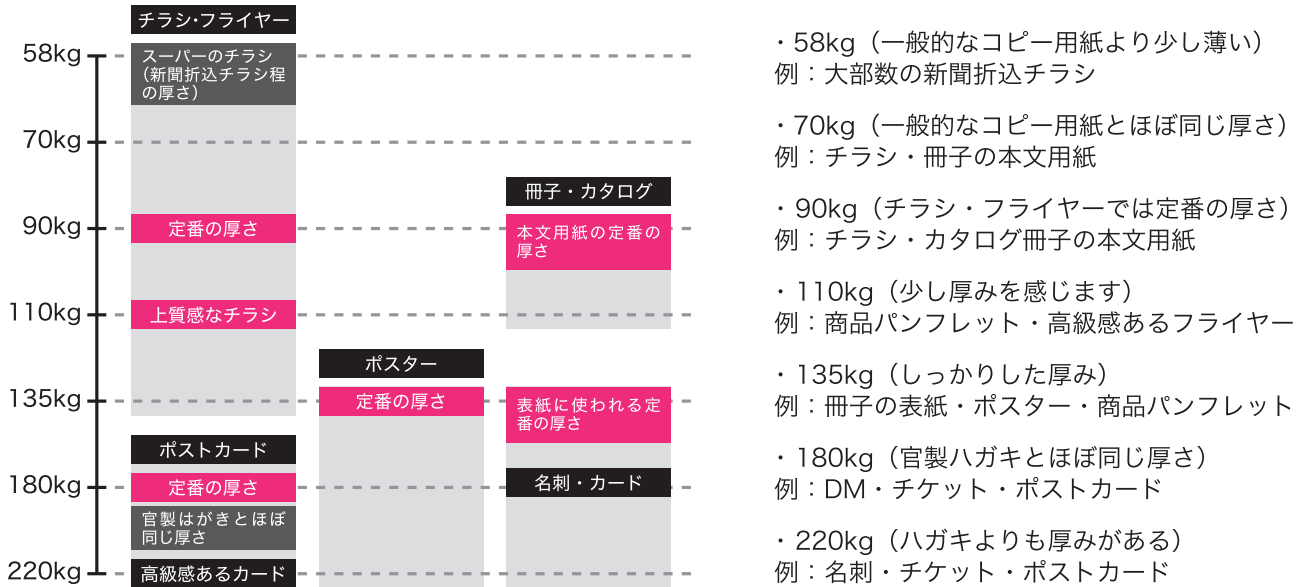
色上質紙

コピー用紙のように平滑・マットな紙質で、色数が豊富な紀州の色上質紙です。色数多く安価な色上質紙は、チラシや冊子の表紙、カードなど幅広い用途にご利用いただけます。用紙の厚さは、中厚口、厚口、特厚口、最厚口、超厚口までご用意が御座います。(一部取り寄せ)

【用紙カラー】レモン、アイボリー、肌、白茶、クリーム、濃クリーム、やまぶき、黄、もえぎ、みどり、若竹、鶯、若草、浅黄、水、空、ブルー、うす水、あじさい、ラベンダー、藤、りんどう、さくら、コスモス、桃、サーモン、びわ、オレンジ、アマリリス、赤、白、銀鼠

用紙の厚さ

紙の厚さは〇〇kg という斤量（きんりょう）を用いてあらわします。斤量＝原紙（四六判 788mm×1091mm）1,000 枚分の重さ（kg）で、数値が低いほど薄く、高いほど厚くなります。また、同じ斤量でも 用紙が異なると厚さは異なります。



印刷の色目について(色合いの変化)

RGB と CMYK では、再現できる色の領域（色空間・カラースペース）が異なります。RGB は画像や、パソコンのモニタ上に表現される色であり、“光” で表現されているため、蛍光色のような明るく鮮やかな色も表現可能です。対して CMYK は、“塗料” で表現されているため、蛍光色のような鮮やかな色は表現できません。そのため RGB で作成されたデータを実際に印刷すると、CMYK で再現できない色域が別の色（CMYK での近似値）に置き換えられるため全体的にくすんだ様な色味になって仕上がります。

RGB



CMYK



変換時のイメージ画像になります。

RGB



CMYK

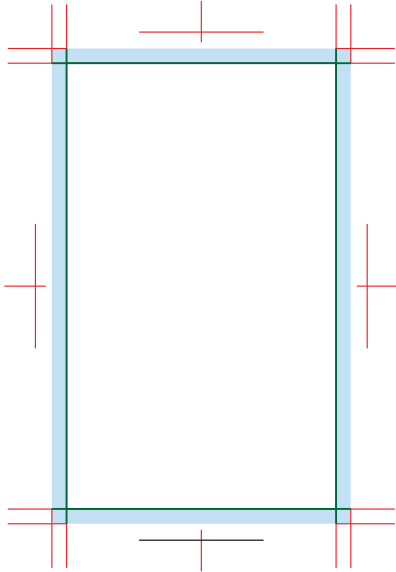


Office ソフトは RGB 色で表現されますので、出力の際は CMYK に置き換えられます！



塗り足しとトンボについて

トンボとは印刷物を作成する際に、仕上がりサイズに断裁するための位置や多色刷りの見当合わせのため、版下の天地・左右の中央と四隅などに付ける目印です。



トンボとは

印刷物を作成する際に、仕上がりサイズに断裁するための位置を記すマークです。(赤線がトンボになります)

塗り足しとは

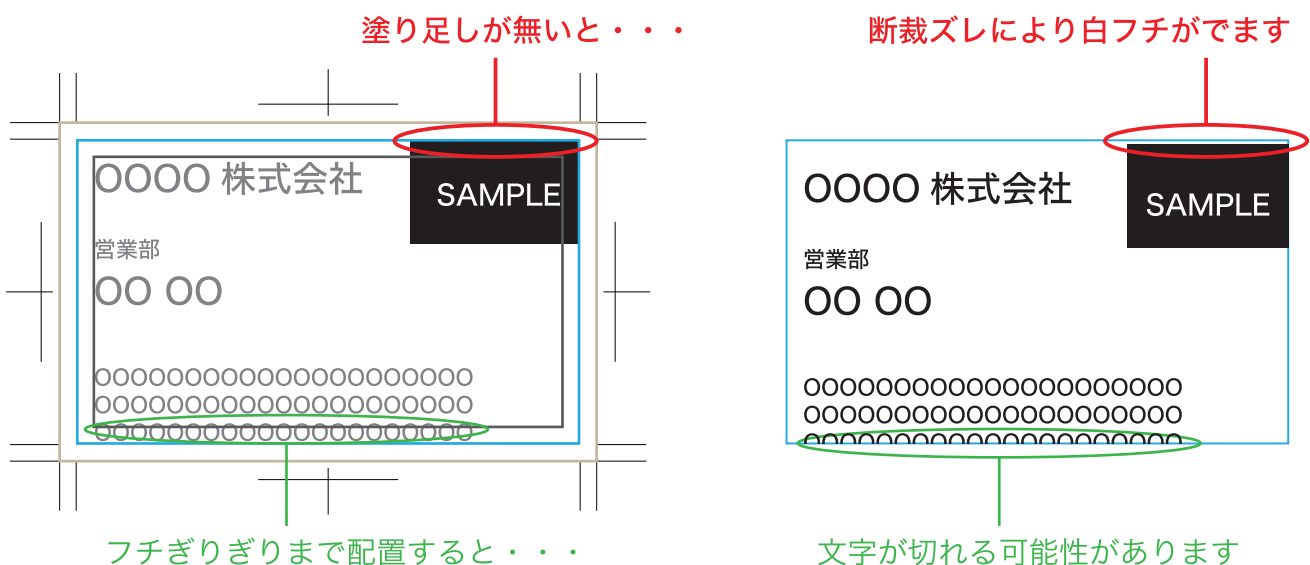
塗り足しとは、仕上がりサイズに対して端まで文字や写真などの絵柄を配置したい場合に、仕上がりサイズよりも 3mm 程度大きめに絵柄を配置する領域です。(水色枠が塗り足しになります)

断裁位置

紫色が断裁位置になります。断裁位置に文字や断裁されては困るオブジェクトがかからないようにデータを作成してください。(緑線が断裁位置になります)

塗り足しが不十分な場合

パンフレットやチラシ、名刺など用紙のフチまで印刷するデザインの場合、断裁作業が必ず必要になってきます。断裁位置ギリギリのサイズでデータ制作をされますと、仕上がった状態でフチに白い部分が出てきてしまいます。こうした仕上がりにならないようにするためには、断裁位置を決定するトンボと塗り足しが必要となります。



エクセルでの塗り足しを付ける作業は難易度が高く解説していません。どうしてもエクセルで塗り足しが必要なデータを作成しなければいけない場合は MD コーナーまでお問い合わせください。

Wordでの塗り足しデータ作成手順

設定サイズが仕上がりサイズになります。

Wordでは「トンボ」は付けられませんが、仕上がりサイズに上下左右にそれぞれ3mm足していれば「塗り足し」は付けられます。仕上がりにかかる位置まで背景や帯などをレイアウトされる場合は、塗り足しが必要ですので下記ページ設定方法をご確認ください。

1. ページ設定でサイズを指定します。

仕上がりがA4サイズの場合（仕上がり：210×297mm）を例に解説します。

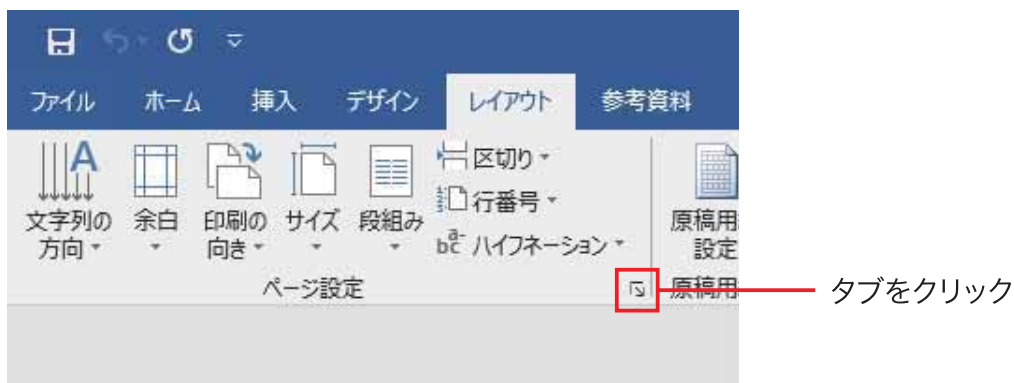
2003以前：ファイル→ページ設定

2007/2010：ページレイアウト→サイズ→その他の用紙サイズ

2019：レイアウト→ページ設定右下→タブ

を選択し、幅（210mm+左右3mmずつを足した216mm）と高さ（297mm+上下3mmずつを足した303mm）を入力します。

Word 2019で説明します。レイアウト→ページ設定右下→タブをクリック



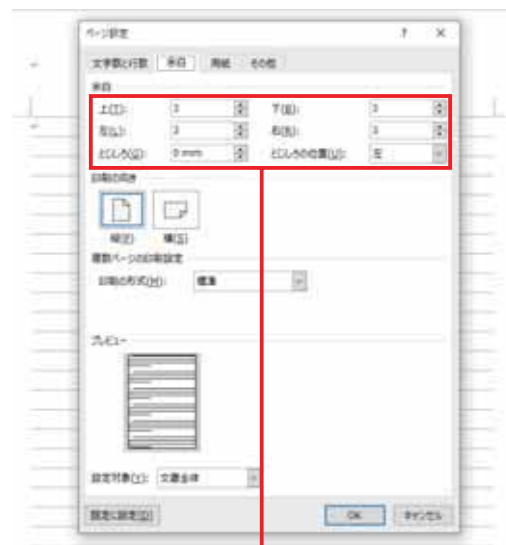
・2019：レイアウト→ページ設定右下→タブをクリック



上下左右3mmずつ足した数字を入力してください。

幅：216

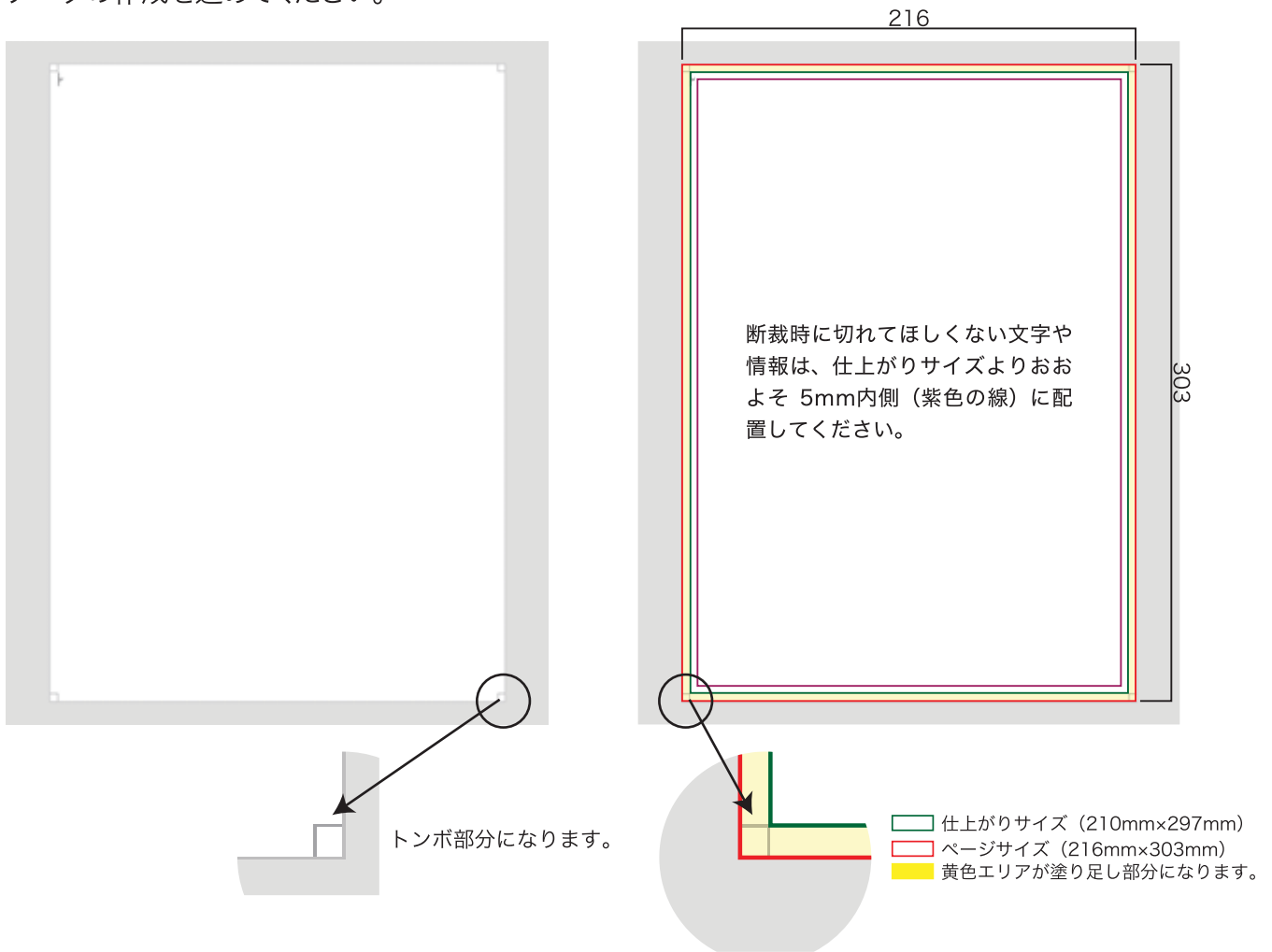
高さ：303



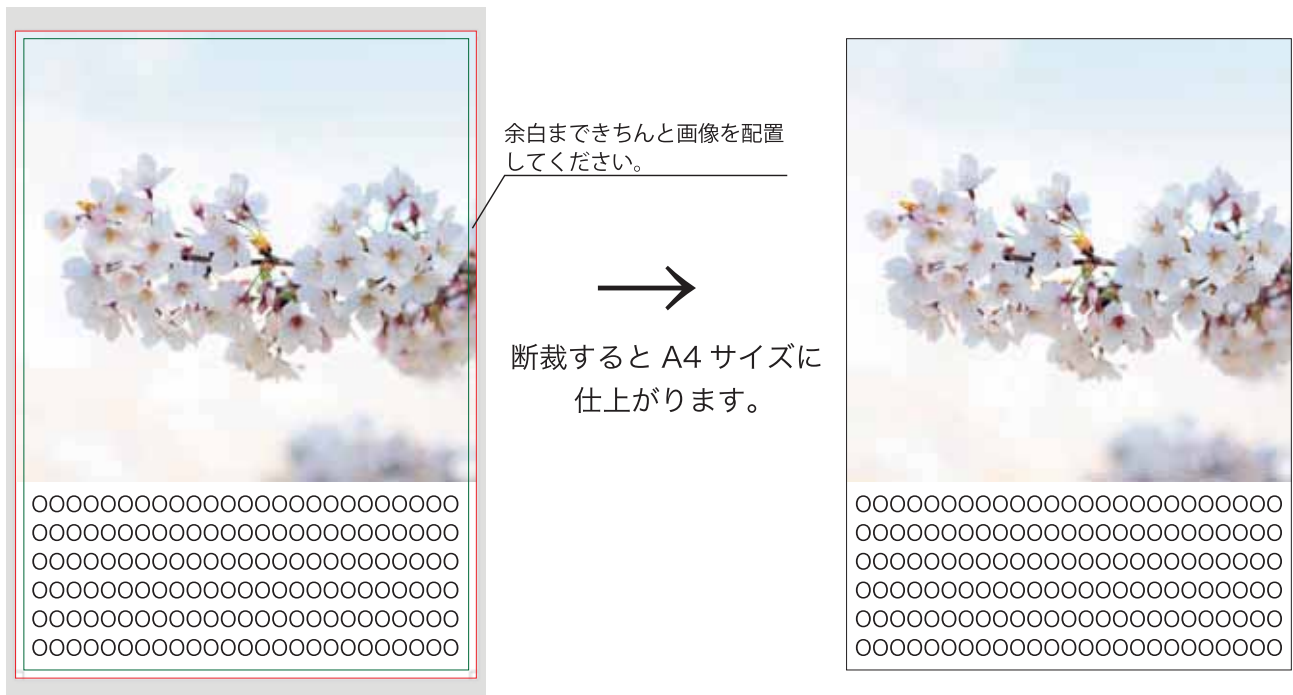
余白を3mmに設定してください。余白の3mmは塗り足しとなり断裁されます。断裁されては困るものは仕上がりサイズよりも5mm程内側に配置してください。

2. 塗り足し部分に注意をしながらのデータ作成

ページ・余白設定完了後は下の画像のようなページになります。四隅にトンボが確認できましたら、データの作成を進めてください。



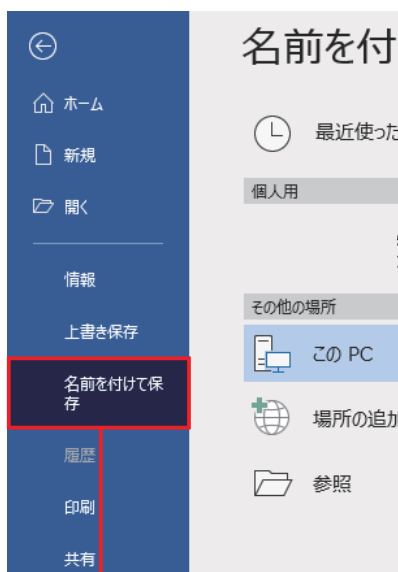
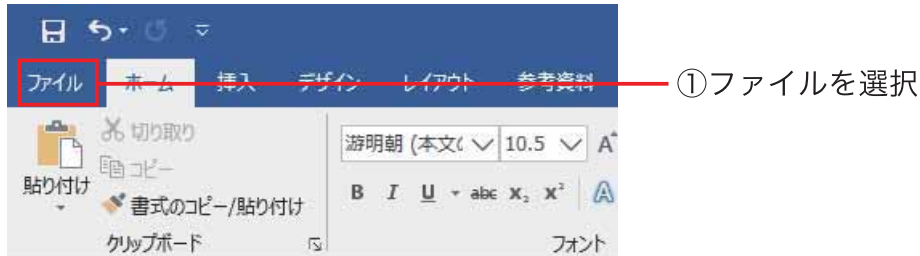
実際に文章・画像配置をし断裁された仕上がりイメージはこちらになります。



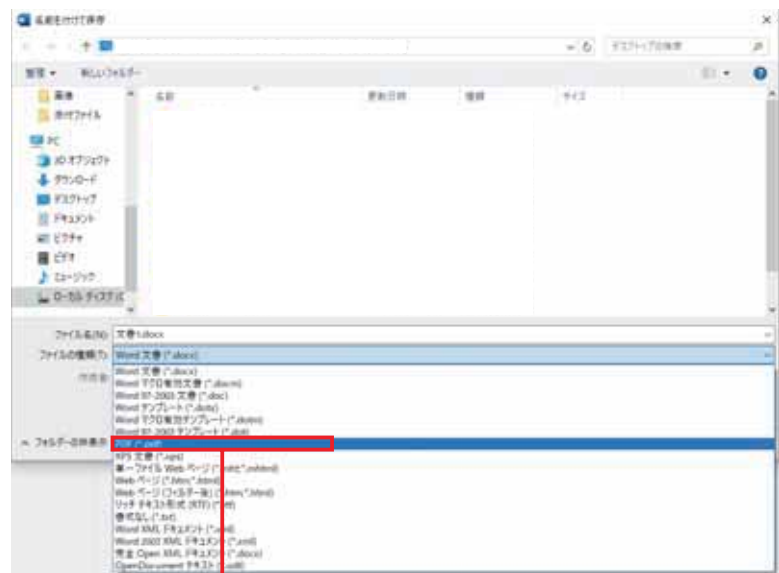
3.PDF への変換

データ作成完了後は、PDF へ変換しご入稿ください。手順は以下の通りとなります。
 ※塗り足しの無いデータでも、PDF 入稿をお願い致します。

・ Word 2019 での解説になります。



②名前を付けて保存を選択



③PDF を選択し、保存で完了です。

推奨するPDF作成ソフト

こちらの PDF 作成ソフトをダウンロードし変換してください。

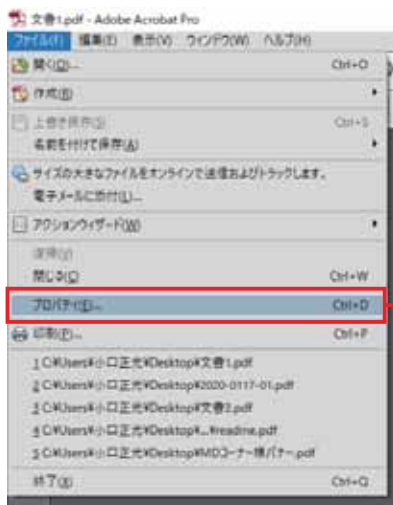
※作成する PDF にはセキュリティはかけないでください。



<https://www.cube-soft.jp/cubepdf/ja/>

4.PDF変換後の確認

データ作成完了後は、PDFへ変換しページサイズ、フォントが埋め込まれているのか確認をお願いします。



プロパティを選択

ページサイズ、
フォントの埋め込みは必ず
チェックしてください。



・ページサイズが 216×303 と表示されていることを確認してください。



POINT!

ページサイズは塗り足し有りの 216×303 サイズになっていることを確認してください。印刷後には天地左右 3mm ずつ断裁しますので、仕上がりは A4 (210×297) となります。

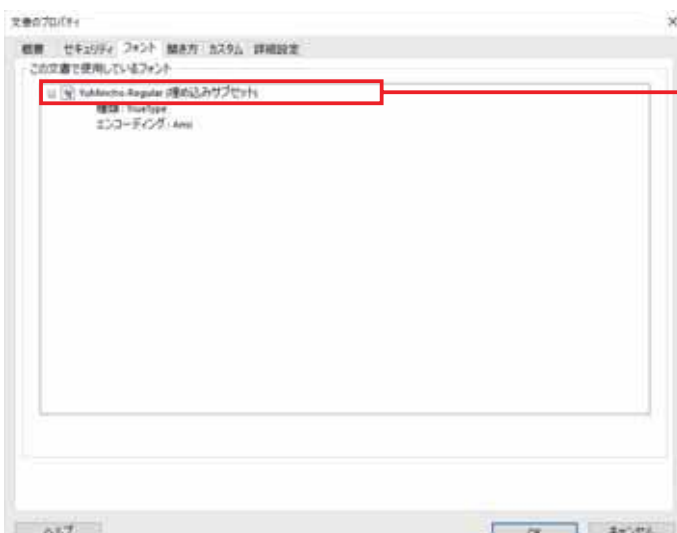
A版 (JIS 規格サイズ)

種類	規格サイズ	塗り足しサイズ
A0	841×1189	847×1195
A1	594×841	600×847
A2	420×594	426×600
A3	297×420	303×426
A4	210×297	216×303
A5	148×210	154×216
A6	105×148	111×154

B版 (JIS 規格サイズ)

種類	規格サイズ	塗り足しサイズ
B0	1030×1456	1036×1462
B1	728×1030	734×1036
B2	515×728	521×734
B3	364×515	370×521
B4	257×364	263×370
B5	182×257	188×263
B6	128×182	134×188

フォントタブを選択し、フォント名横に (埋め込みサブセット) と表示されていることを確認してください。



フォント埋め込み確認

(埋め込みサブセット) と表示されていないと、文字化けしている可能性がありますので、必ず確認をお願いします。

PowerPoint での塗り足しデータ作成手順

設定サイズが仕上がりサイズになります。

Word では「トンボ」は付けられませんが、仕上がりサイズに上下左右にそれぞれ 3mm 足していただければ「塗り足し」は付けられます。仕上がりにかかる位置まで背景や帯などをレイアウトされる場合は、塗り足しが必要です。下記ページ設定方法をご確認ください。

1. ページ設定でサイズを指定します。

仕上がり A4 サイズの場合（仕上がり：210×297mm）で説明します。

パワーポイントで最も多い間違いが、スライドのサイズの設定です。スライドサイズの設定に注意しながらデータの作成をお願い致します。

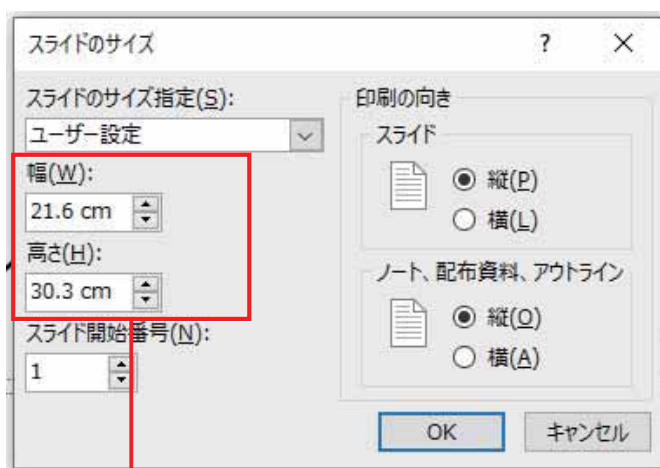
・PowerPoint 2019 で説明します。

①デザイン→②スライドのサイズ→③ユーザー設定のスライドのサイズを選択します。



・赤枠内の設定を、上下左右に 3mm ずつ足した数字を入力します。

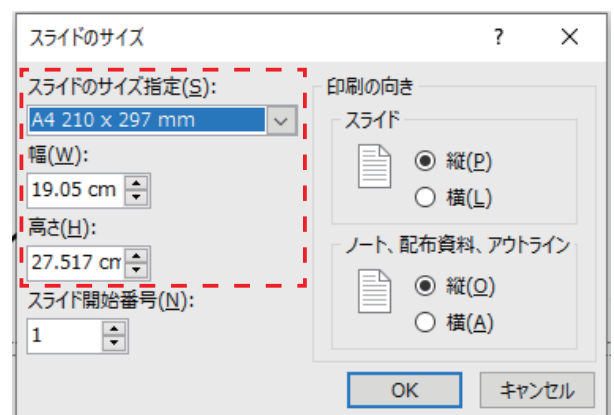
A4 = 幅：21.6cm、高さ 30.3cm



幅 (W)・高さ (H) のサイズを変更してください。
(スライドサイズを A4 にしても、幅・高さを変更しなければサイズは変わりません)

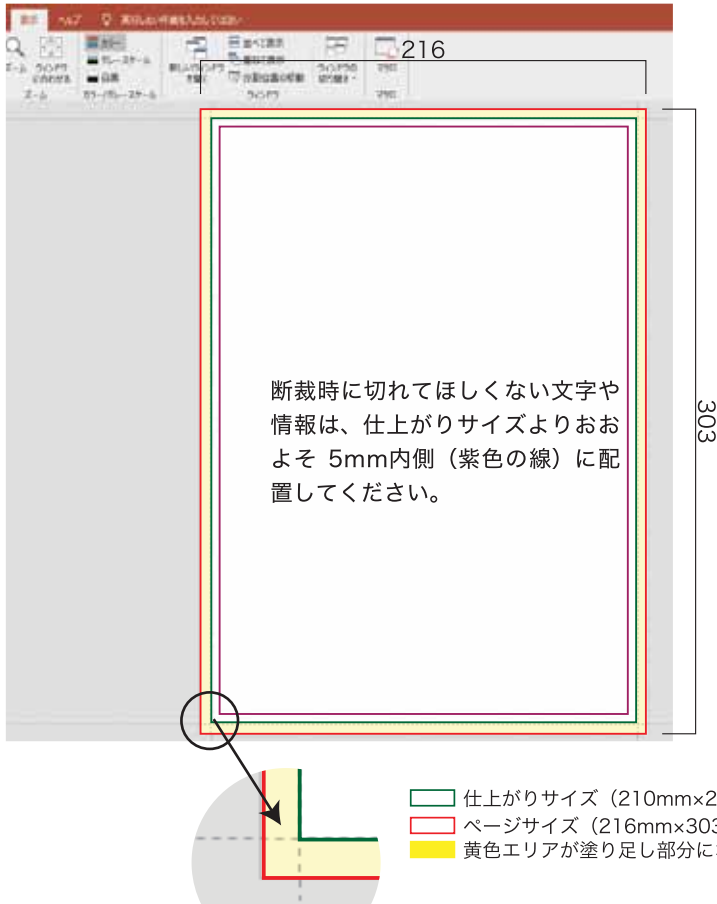
よくある間違い！

スライドのサイズ指定を A4 サイズにしても幅と高さは変更されませんのでご注意ください。
必ず、幅 (W)・高さ (H) のサイズを変更してください。

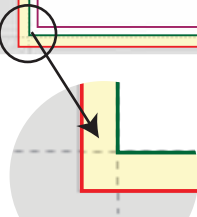


2. 塗り足し部分に注意をしながらのデータ作成

・スライドサイズを変更したらおおよその位置にガイドを引き、データの作成をお願いします。
 (ガイドは上下左右 3mm 程の位置に配置してください) 断裁されて困る文字や写真などは、
 ガイドから 5mm程度離してデータの作成を進めてください。



塗り足しが不十分だと断裁した時に、白フチがでてしまったり、文字が切れてしまったりするので気を付けてください。



- 仕上がりサイズ (210mm×297mm)
- ページサイズ (216mm×303mm)
- 黄色エリアが塗り足し部分になります。

実際に文章・画像配置をし断裁された仕上がりイメージはこちらになります。



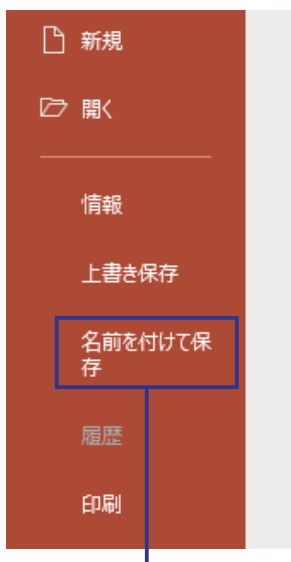
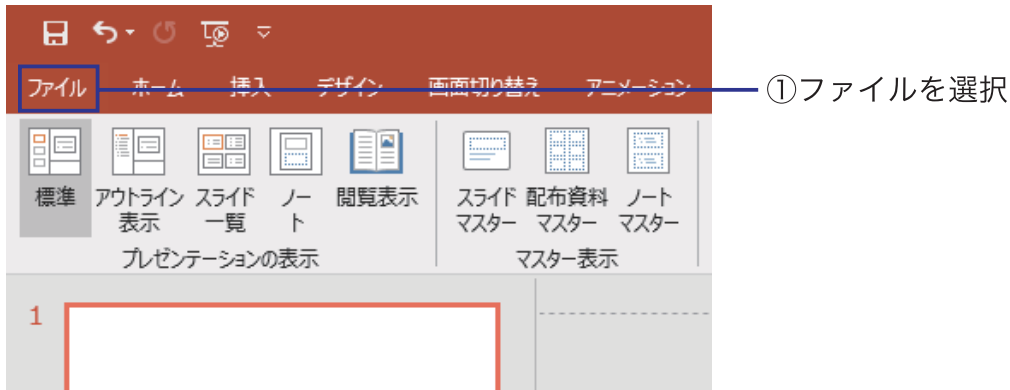
断裁すると A4 サイズに仕上がります。



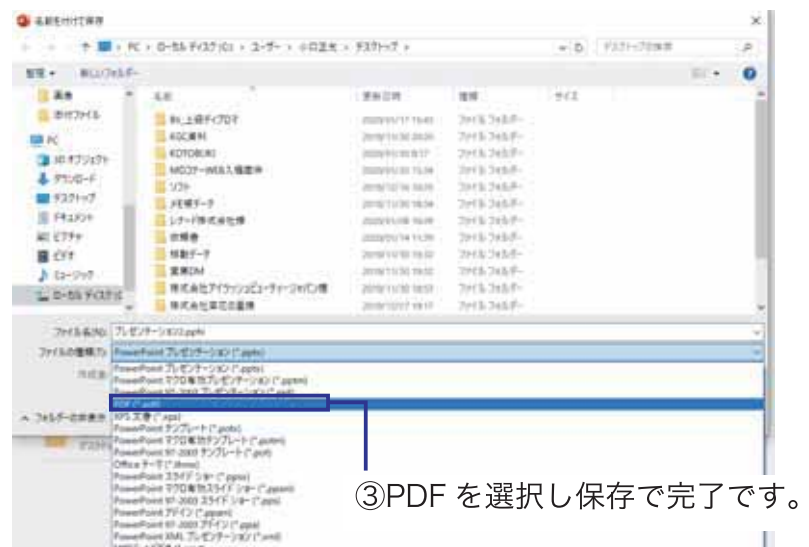
3.PDF への変換

データ作成完了後は、PDF へ変換しご入稿ください。手順は以下の通りとなります。
 ※塗り足しの無いデータでも、PDF 入稿をお願い致します。

・ PowerPoint 2019 での解説になります。



②名前を付けて保存を選択



③PDF を選択し保存で完了です。

PDF 変換後は、7 ページ同様サイズ・フォント埋め込みのチェックをお願い致します。

推奨するPDF作成ソフト

こちらの PDF 作成ソフトをダウンロードし変換してください。

※作成する PDF にはセキュリティはかけないでください。



<https://www.cube-soft.jp/cubepdf/ja/>

Illustrator でデータを作成する場合のチェック項目

- 1. 仕上がりサイズの確認
- 2. カラー設定の確認（CMYK モードになっているのか確認してください）
- 3. フォントがアウトライン化されているか
- 4. 配置画像ファイルは埋め込みされているか（AI データでの入稿時）
- 5. アートボード上にトンボが配置されているか
- 6. 塗り足しは十分確保されているか

以上の事を確認しご入稿ください。（PDF 変換を推奨しております）

Photoshop でデータを作成する場合のチェック項目

- 1. 仕上がりサイズの確認
- 2. 全てのレイヤーが統合されているか
- 3. カラー設定の確認（CMYK モードになっているのか確認してください）
- 4. 解像度が足りているか
- 5. 塗り足しは十分確保されているか

以上の事を確認しご入稿ください。

※Photoshop には、トンボを作成する機能がありません。
ガイドラインを利用して仕上がりサイズと塗り足し（上下左右 3mm）の設定を行って下さい。

InDesign でデータを作成する場合のチェック項目

- 1. 仕上がりサイズの確認
- 2. カラー設定の確認（CMYK モードになっているのか確認してください）
- 3. 塗り足しは十分確保されているか
- 4. ページ順でデータが作成されているのか

以上の事を確認しご入稿ください。（PDF 変換を推奨しております）